

2015年3月16日

トキコテクノ株式会社

会社名(商号)変更に関する件

トキコテクノ株式会社(代表取締役社長:中野雅夫、本社:神奈川県横浜市鶴見区)は、
2015年4月1日より社名を次の通り変更することいたしました。

新社名	(和文)日立オートモティブシステムズメジャメント株式会社 (英文)Hitachi Automotive Systems Measurement, Ltd.
本社所在地	横浜市鶴見区
事業内容	計装機器の開発・製造・販売／給油所・エコステーションのプランニング・ 設計・施工／各種工場プラントのシステムエンジニアリング／環境機器 販売・環境サポート事業／各種法定検査／計装機器のメンテナンス
代表者	代表取締役社長 中野 雅夫
資本金	25 億円
従業員数	576 名(2014.4.1 現在)
株主	日立オートモティブシステムズ(株)100%
変更時期	2015年4月1日

当社は、平成14年10月の旧トキコ(株)計装事業部との統合以来、「新生トキコテクノ」として、サービスステーション関連事業・計装関連事業・保守サービス事業・海外事業の4本柱を機軸に、エネルギーインフラを支えるべく、事業を発展させて参りました。

今年、当社の前身である昭和12年創立の東京機器工業(株)が「トキコ(株)」に社名変更してから満50年を迎えます。この節目を契機として、社名を変更いたします。

今後も日立グループの一員としてさらなる飛躍を目指してまいります。

なお、前身の旧トキコ(株)から長きに亘って使用しユーザーに馴染みのある「TOKICO」ロゴは、製品ブランドとして当面継続して使用します。

【トキコテクノの社歴】

弊社の系譜は明治 43 年に設立された「東京瓦斯電気工業(株)」の計器部が昭和 12 年に分離独立した「東京機器工業(株)」に遡る。

前身の東京機器工業(株)は計測・計量機器を主力製品としていたが、鉄道車両機器や自動車関連機器にも深く携わってきた。自動車用燃料噴射ポンプ、ショックアブソーバ、ブレーキなどである。

昭和 25 年には、モータリゼーションの到来を予見し、ガソリン計量機の生産を開始し、「クルマを動かすエネルギー」を「計り」「供給する」スタートラインとなった。

同年計量機の販売と給油所の建設を行うトキコ油器(株)を設立。

昭和 40 年には、社名を「東京機器工業(株)→トキコ(株)」に変更。

昭和 41 年には、トキコ製品のメンテナンスを行うトキコメンテナンス(株)を設立。

平成 10 年には、トキコ油器(株)とトキコメンテナンス(株)が合併しトキコテクノ(株)が誕生した。その後、平成 14 年に旧トキコ(株)計装事業部門と統合して新生トキコテクノが誕生し現在に至る。

その間、前身の旧トキコ(株)は、平成 16 年に日立製作所の自動車機器事業部に統合、平成 21 年には、新たに、日立オートモティブシステムズ(株)走行制御事業部となる。

【クルマを動かすエネルギーを「計り」「供給する」歩み】

モータリゼーションの到来、国内の自動車産業の隆盛とともにクルマを動かす内燃機関の燃料としてはガソリン、軽油、液化石油ガス(LPG)、圧縮天然ガス(CNG)、アルコール(メタノール、エタノール)、水素等が次々と利用されるようになってきた。

地球温暖化等の環境問題やエネルギーセキュリティの観点から、石油由来の燃料からの転換が図られている。

当社は環境、社会の要求の変化に応じてLPGディスペンサを昭和 37 年に、圧縮天然ガス(CNG:圧力 20MPa)ディスペンサを国内で初めて平成 6 年に製品化してきた。

更には、燃料電池自動車向けディスペンサとして高圧水素ガス供給用の高圧水素ガスディスペンサ(圧力:20/25/35MPa)を平成 13 年にいち早く開発、現在では、NEDO(独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構)の水素利用技術研究事業としてより高圧な 70MPa 仕

様の高圧水素ガスディスペンサを開発した。静岡事業所内には独自の実証試験設備を備え、水素実ガスによる実証試験が可能であり、実用化が現実のものとなった。水素元年と言われる平成 27 年、続々と新開発のトキコ水素ディスペンサが導入されている。

また、実験検証用として、過去には、液化天然ガス(LNG)ディスペンサ、液体水素ディスペンサなどの開発も実施してきた。

現在では、軽油代替燃料としてのDME(ジメチルエーテル)用ディスペンサの開発も日本DME協会の一員として進めている。

以上